

船舶事故調査報告書

平成26年9月18日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成26年4月3日 16時10分ごろ
発生場所	福岡県宗像市筑前大島西方沖 筑前大島灯台から真方位234° 1,020m付近 （概位 北緯33° 54.3′ 東経130° 24.0′）
事故調査の経過	平成26年4月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	警備艇 げんかい、21トン 140714、内閣府 18.51m×4.20m×2.00m、アルミニウム合金 ディーゼル機関2基、1,628kW（合計）、平成20年1月29日
乗組員等に関する情報	船長 男性 53歳 六級海技士（航海） 免許年月日 平成17年4月22日 免状交付年月日 平成22年4月21日 免状有効期間満了日 平成27年4月21日
死傷者等	なし
損傷	両舷のプロペラ、プロペラ軸及びプロペラ軸受に曲損、左舷舵板に擦過傷、右舷舵軸に曲損、右舷舵機に濡損
事故の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、船首約0.8m、船尾約1.0mの喫水により、筑前大島北西方沖をGPSの20m等深線に沿って西進後、南西進していた。 船長は、航行方向に暗岩が存在することを知っていたが、まだ暗岩に接近していないものと思い、陸岸の物標で船位を目測しながら航行中、本船が、平成26年4月3日16時10分ごろ、筑前大島灯台から真方位234° 1,020m付近において、暗岩に乗り揚げた。 本船は、両舷機が使用不能となり、舵機室に浸水したが、所属警察署、海上保安庁などに連絡した後、水難救済会の救助艇に引き出され、巡視船にえい航されて福岡県福岡市博多港の博多臨港署定係地に戻った。

	(付図1 事故発生経過概略図 参照)
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮末期
その他の事項	本船は、航行範囲が福岡県糸島市の県境から博多湾を経て筑前大島までであり、同範囲の海図を備えていた。 本船は、レーダー及びGPSプロッターを装備していたが、船長は、GPSプロッターの航跡を記録する設定としていなかった。 本船は、2軸2舵であった。
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、筑前大島北西方沖を南西進中、船長が、航行方向に暗岩が存在することを知っていたが、暗岩に接近していないものと思ひ、陸上の物標で船位を目測しながら、航行を続けていたことから、暗岩に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、筑前大島北西方沖を南西進中、船長が、暗岩に接近していないものと思ひ、陸上の物標で船位を目測しながら、航行を続けていたため、暗岩に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 障害物が存在する水域を航行する場合、海図で水路状況を確認した上、レーダー及びGPSプロッターを使用して船位を確認しながら、航行すること。 ・ GPSプロッターの航跡を残す設定とし、事故の解析及び再発防止に活用すること。

付図1 事故発生経過概略図

